

No. 5 掲示・展示の工夫

学校図書館における掲示や展示は、児童生徒の興味関心を高め、読書意欲や知識欲を誘う重要な役割をもっている。学校図書館の雰囲気作りにも役立ち、掲示や展示を変化させることで学校図書館の活発な動きを感じてもらえることができる。しかし、学校司書や司書教諭が忙しく、掲示や展示に時間をとることが難しい場合も多い。したがって、いかに労力を少なくして効果を挙げることを考えるかが鍵となる。

効率的に掲示や展示をするために、毎回写真を撮って記録しておいたり、1月～12月の箱を用意して毎月の掲示物をしまっておき、その時の状況に合うように工夫したり、壊れたものは修理したりして使うこともできる。

掲示・展示には、次の点に留意しよう。

- あまり凝りすぎず、身近な材料で展示や掲示をおこなう。
- 展示や掲示には、情報を詰め込み過ぎないように気をつける。
- 展示や掲示の目的や児童生徒の発達段階も考える。
- 展示や掲示は、児童生徒が発表(プレゼンテーション等)を行う際のヒントになることもある。簡単なものほど児童生徒は取り入れやすい。

1. お薦めの本を紹介する

- 教員のお薦めの本を展示する。特に「校長先生お薦めの本」は児童生徒の話題になりやすい。
- 教員や児童生徒に本のPOPや帯を作って紹介してもらう。
- 児童生徒が「●年生へ」や「歴史が好きな人へ」など宛先やコメントをつけて、お薦め本を紹介し合う。教員や学校図書館担当者も同様におこなう。
- 「読書の本」を作る。例えば木を描いて、小さなカードを用意し、児童生徒がお薦めの本を書いて貼る。「分野別の枝」を作ることもできる。
- 小学校の場合、『どうぞのいす』(香山美子・作 柿本幸造・絵 ひさかたチャイルド 1981)をヒントに、「どうぞの本」としてブックスタンドにお薦めの本を置き、その本を手にとった児童がまたお薦めの本を置く、という形にすると、手軽にお薦めの本を紹介できる。
- 本の前に画用紙等で扉を作り、めくると本が出てくる楽しさを演出することもできる。

2. 掲示板の背景の色を変える

- 掲示の背景となる地色をときどき変えることも一案である。大きな面の色が変わると変化していることがわかりやすい。特に中・高生はいつもあわただしく通りすぎることが多く、掲示板が複数ある場合は、広い面積を一色にすることで、色が変わった場合「あれ?」と立ち止まらせることができる。
- 展示の場合もテーブルクロスなどの色を変えることで、変化に気づいてもらえる。
- 展示や掲示を一人で続けていると工夫をしても雰囲気が似通ってしまうが、地色をガラリと変えることで、印象を変えることができる。

3. 新聞を利用する

- 児童生徒が社会に関心を持つように新聞を提示(1 日分を置く、一面を壁に掲示、切り取った記事を掲示など)する。付箋を活用すると意見・感想を交換することもできる。
- 同じ日の複数紙を入手して、「一面記事比べ」や「どこが違う?」「どれが好き?」等のタイトルをつけて掲示する。
- 各地の地方紙が手に入れば、日本地図をつけて紹介する。
- 新聞記事の見出しを隠して掲示し、めくって見られるようにしてもいい。後日、隠したものを取り、児童生徒が考えた見出しを貼ってもよい。
- 紙面の中の「好きな写真を探す」「習った漢字を見つける」「擬音語・擬態語を探す」など、小学校低学年でも新聞に親しんでいくように取り組める方法もある。

4. 「読書新聞」をみんなで作る

- 「読書新聞」という枠を作り、掲示する。記事(お薦めの本)を記入する紙を用意し、書いた人から順に貼っていく。(見本として何枚か書いて、先に貼っておく)
- 教科の中で作成した「読書新聞」を掲示することもできる。

5. 教科や委員会等とのコラボ

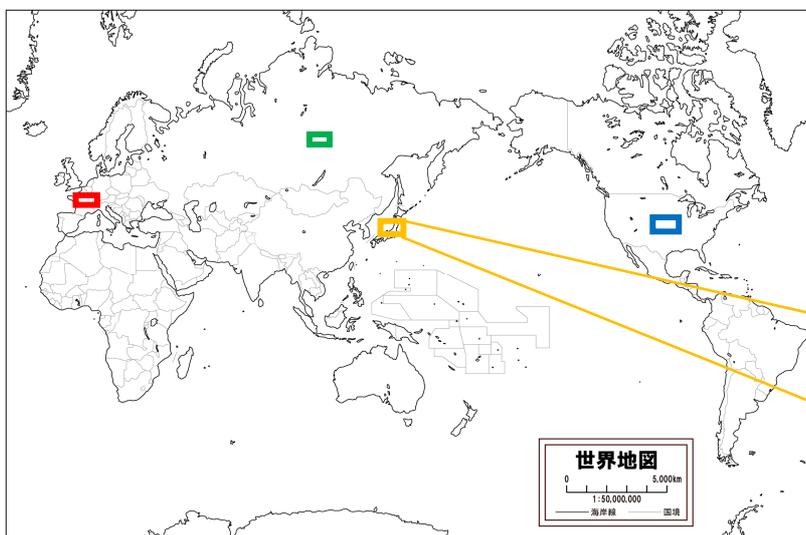
- 調べ学習の成果物などを掲示する。方法は教科担当の教員と相談する。
- 保健委員会の「冬の風邪対策コーナー」に関連図書を展示するなど、コラボ展示をする。(各委員会担当教員と相談すると話が進みやすい)
- ALT(外国語指導助手)や他の教員に、展示や掲示のコーナーの一部を担当してもらうこともできる。

6. 掲示例

- 地図を利用した掲示

例えば、テーマを「○○で世界一周」、「動物が出てくる絵本」(下図)などと決めて、本を展示するとともに、書名と国名(作者の出身または出版された地域・国)を記入した紙を地図に貼る。

- ・ ◆紙は色枠線で囲んだ方が地図上で分かりやすい。
- ・ ◆本のカバーを使うこともできる。
- ・ ◆本は自館の蔵書から選ぶ。本が置ける場合は一緒に展示する。



例：「動物が出てくる絵本」

『ぞうのババール』
フランス

『おおきなかぶ』
ロシア

『ぐりとぐら』
日本

『ひとまねこざる』
アメリカ

他にも、次のような掲示が考えられる。

- ・ ◆物語を選んで、その舞台となった地域・国に書名を貼る
- ・ ◆歴史上の舞台や遺跡を扱った本の書名をその地域・国に貼る
- ・ ◆科学者・科学情報、昔話・祭り・食などの文化や世界遺産をテーマに、本と国・地域を結びつける
- ・ ◆国旗を示したり、その国の特徴的な家や衣装を着た人を置いたりして、紹介すると面白い
- ・ ◆多言語の図書を紹介するときに、「こんにちは」を世界の言語で地図に吹き出しなどを貼る

○日本地図を使って作ることもできる。

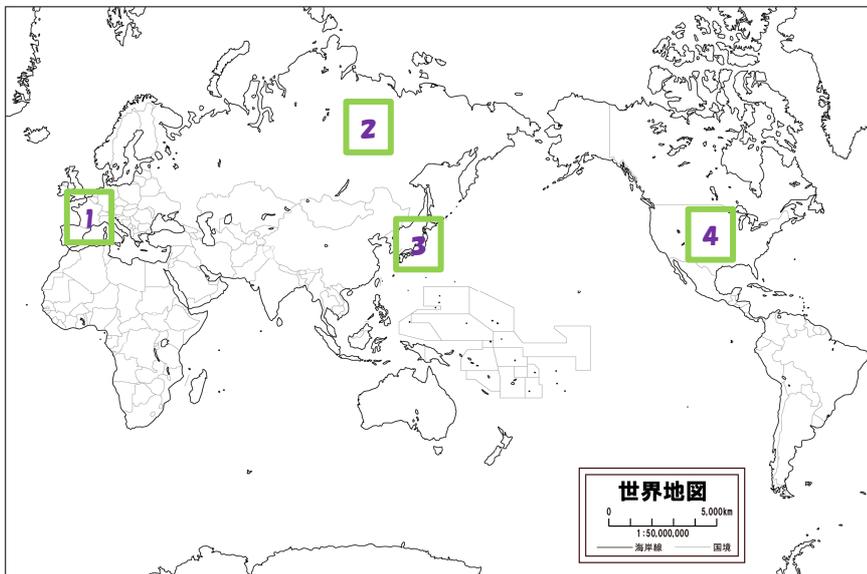
- ・ ◆方言や民話を紹介するときに、その地域と結びつける
- ・ ◆郷土料理や伝統工芸品、各地の祭りなどを紹介することもできる

○地図だけではなく年表にも応用できる。

例えば、小学校高学年以上を対象に、地図以外にも年表を利用して物語の内容に対応する時代に対応する時代に紙を貼ることも面白い。わかりやすい例として、『マジック・ツリーハウス』シリーズ(メアリー・ポープ・オズボーン・著 KADOKAWA)の場合、例えば、第7巻『ポンペイ最後の日』は、世界地図ならイタリアに、年表なら紀元1世紀に書名を書いた紙を貼る。

○掲示と同じ本を使いまわしてクイズ形式にもできる。

例：「この本はどの番号の地域の本でしょうか？」



『ひとまねこざる』 アメリカ	答1
『おおきなかぶ』 ロシア	答2
『ぐりとぐら』 日本	答3
『ぞうのババール』 フランス	答4

(答えは紙で隠して見えないようにしておく)

- 書名の横に答えを書いて、答えは紙で隠すように貼る。めくると正解が見えるようにする。
- 小学校低学年から中学生まで、めくったりしてすぐに確認できる参加型掲示は好評である。
- 低学年で使う場合は、手が届くところに掲示する。
- 紙が傷んだ場合は、関心を持った児童生徒が多かった証拠である！
- クイズの問題には、必ず自館の蔵書を使う。